

令和4年1月17日

ベスト・シーニックバイウェイ・プロジェクト2020

表彰式を開催

～祝！部門賞（活力ある地域づくり賞）受賞！～



シーニックバイウェイ北海道指定ルート「どうなん・追分シーニックバイウェイルート」は「殿様街道探訪ウォークにおける地域の歴史資源研究活動」により「ベスト・シーニックバイウェイ・プロジェクト2020」部門賞（活力ある地域づくり賞）を受賞したので、表彰式を以下のとおり開催します。

ベスト・シーニックバイウェイ・プロジェクトはシーニックバイウェイ北海道の活動で、他の模範となり将来への発展性が高く評価出来る活動を選出、表彰する取組として平成20年度から実施しています。

この度令和3年12月14日に開催された「第19回シーニックバイウェイ北海道推進協議会」において部門賞（活力ある地域づくり賞）を受賞した「どうなん・追分シーニックバイウェイルート」の表彰式を行います。

傍聴・取材を希望される報道関係者の方は、当日、木古内町役場までお越しください。

記

日 時 令和4年1月19日（水）14：00～15：00

場 所 木古内町役場 3F 第一研修室

内 容 「ベスト・シーニックバイウェイ・プロジェクト2020」表彰式

※受賞プロジェクトの詳細は別紙をご覧ください。

※新型コロナウイルス感染拡大防止のための対策としてマスクの着用、3密の回避、消毒液の設置、体温測定などを実施いたします。

【シーニックバイウェイ北海道とは・・・】

みちをきっかけに地域と行政等が連携し、『美しい景観づくり』『活力ある地域づくり』『魅力ある観光空間づくり』を目的に地域ごとに特色のある様々な活動が進められ、全道で指定13ルート、候補3ルートの約460の団体が活動しています。詳細は、シーニックバイウェイ北海道推進協議会ホームページを参照ください。

https://www.hkd.mlit.go.jp/ky/kn/dou_kei/ud49g700000n0ut.html

【問合せ先】 国土交通省 北海道開発局 函館開発建設部

特定道路事業対策官 片岡 敏行 (0138) 42-7629(内線 325)

広報官 齊藤 整 (0138) 42-7702(内線 216)






函館開発建設部ホームページ <https://www.hkd.mlit.go.jp/>





ベスト・シーニックバイウェイズ

プロジェクト2020 受賞プロジェクト一覧

受賞部門	プロジェクト名	ルート名
 最優秀賞	～景観阻害物を撤去して再利用！～ 景観向上に向けた雑木伐採と資源のリユースプロジェクト	支笏洞爺ニセコルート
	オロロンライン・サイクリスト応援プロジェクト	萌える天北オロロンルート
 部門賞 (美しい景観づくり賞)	～景観阻害物を撤去して再利用！～ 景観向上に向けた雑木伐採と資源のリユースプロジェクト	支笏洞爺ニセコルート
 部門賞 (活力ある地域づくり賞)	～伊能忠敬日本図測量開始場所の史実発見と地域資源活用の取組～ 「殿様街道探訪ウォーク」における地域の歴史資源研究活動	どうなん・追分シーニックバイウェイルート
 部門賞 (魅力ある観光空間づくり賞)	オロロンライン・サイクリスト応援プロジェクト	萌える天北オロロンルート
 活動団体賞	～景観阻害物を撤去して再利用！～ 景観向上に向けた雑木伐採と資源のリユースプロジェクト	支笏洞爺ニセコルート

活力ある地域づくり賞



活動名称

～伊能忠敬日本図測量開始場所の史実発見と地域資源活用の取組～
「殿様街道探訪ウォーク」における地域の歴史資源研究活動

ルート名称

どうなん・追分シーニックバイウェイルート

エントリー部門

活力ある地域づくり

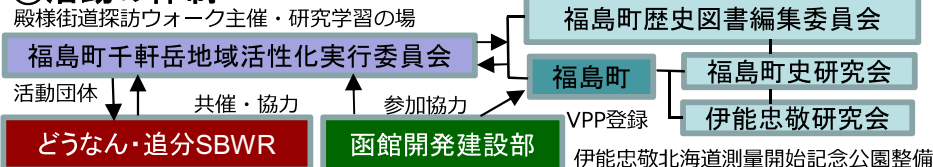
①活動概要（目的・目標、具体的な取り組み等）

●**活動の目的・目標**：江戸時代松前藩の殿様が通った通称「殿様街道」を実際に歩いた歴史的偉人に関する史実を学びながら古道散策を楽しみ歴史を知ること、改めて「道」について“体験と学び”から考える取組である。また、古道散策では地域の季節の植物や自然に触れ、北海道のみならず日本の歴史や文化に影響を与えた史実研究事象等学び、それらを地域資源、観光資源として磨き、活用することも目的とする。

●**活動内容**：「殿様街道探訪ウォーク」は年2回春5月・秋10月に開催。松前藩時代の古道を散策しながら砲台や茶屋跡等の休憩ポイントで毎回設定される歴史テーマを学び、散策後は地産の千軒十割蕎麦を食し、国の重要無形民俗文化財の松前神楽を觀賞する取組。現在までテーマが「伊能忠敬の道」は8回行われ、**研究活動を通して大日本地図測量が福島町吉岡から始まった史実を裏付ける日記や書状を発見**。このことが広く地域の歴史資源として認知されるよう平成30年4月伊能忠敬像を建立、伊能忠敬北海道測量開始記念公園整備、令和2年10月近隣の小学生を対象に歴史勉強会（2回）開催、「ふくしま歴史物語」を3年かけて編纂し令和3年2月完成等の活動に繋がった。

●**活動期間**：平成20年度～令和2年度（継続中）

②活動の体制



③PRポイント

【総意工夫した点や苦勞した点】

- ・ 古道を熟知している人材と事前にルートの安全性の点検、異物除去。当日はハンターが同行する等毎回準備の連携体制が図られている。
- ・ 毎回、先進的な視点で歴史テーマ研究を持続的に行ってきた。
- ・ 「殿様街道探訪ウォーク」はルート設立当初から長期間継続して行っており、リピーターが多く、28回の開催実績を積重ねてきた。

【活動による効果】

- ・ 大日本地図作成に関わる伊能忠敬記念館の国宝は2300点を超える中、**地域の歴史資源研究活動から地図測量が福島町吉岡から始まった史実の裏付けを大発見。地域資源・観光資源として認知向上。**
- ・ 探訪ウォーク参加者の意見をきっかけに**史実を実証化する銅像建立公園整備をし令和2年ビューポイントパーキング登録。一般国道228号沿線の観光空間として地域交流人口を高めている。**
- ・ **地域歴史書「ふくしま歴史物語」取り纏め等子供や地域に歴史資源が浸透・継承する活動に繋がっている。**



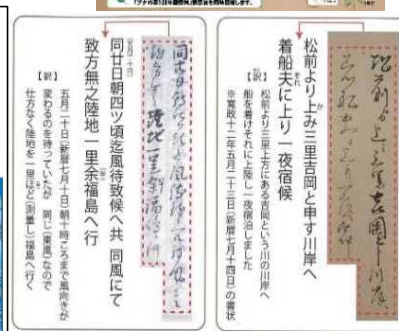
▲「殿様街道探訪ウォーク」学びの取組



「殿様街道探訪ウォーク」参加応募チラシに学習歴史テーマ



▲観光空間となっている伊能忠敬北海道測量開始記念公園と伊能忠敬銅像



▲ふくしま歴史物語表紙と測量が福島町吉岡から始まったことを記載している日記と書状（P6掲載）



▲伊能忠敬銅像の前で松前小学校の生徒に歴史勉強会を開催

(参考) ベスト・シーニックバイウェイズ・プロジェクト



平成20年度から、シーニックバイウェイ北海道の推進に向け、他の模範となる活動で、将来への発展性が高く評価できる取組を選出・表彰する取組。

▼2019

～「はこだて花かいどう」での一年を通じた継続的な取組～
函館新道「花いっぱい活動」及び「シーニックdeナイト」
(函館・大沼・噴火湾ルート)

▼2018

どうなん道の駅連携事業
(どうなん・追分シーニックバイウェイルート)

▼2017

ビューポイントパーキングの景観改善 (電線移設)
(支笏洞爺ニセコルート)



▼2016

いにしえ街道の景観を活かした街づくり
(どうなん・追分シーニックバイウェイルート)

▼2015

そらの森の植樹活動
(釧路湿原・阿寒・摩周シーニックバイウェイ)

▼2014

ライフコンシェルジュ (ご当地風土アドバイザー)
育成事業
(トカプチ雄大空間)



(参考) ベスト・シーニックバイウエイズ・プロジェクト

▼各賞決定までの流れ

募集開始

各ルートから活動の応募

■ 活動団体賞

各ルートによる投票

- ※対象：指定及び候補ルート
- ※自ルート以外に、持ち点10点を自由配点
- ※最多得点を得たプロジェクトを活動団体賞として選出

■ 部門賞、最優秀賞

ルート審査委員会にて審査

- ※対象：指定ルート
- ※ルート審査委員が、持ち点10点を自由配点
- ※最多得点を得たプロジェクトを部門賞候補として選出
- ※選出された部門賞候補から最優秀賞を選出

推進協議会にて活動団体賞、部門賞及び最優秀賞を決定

(参考) ベスト・シーニックバイウエイズ・プロジェクト

ベスト・シーニックバイウエイズ・プロジェクト2020のエントリー状況等

<表彰>

●活動団体賞 1 件（指定・候補ルートを対象） 【エントリー数 17件】

●部門賞 3 件（指定ルートを対象）

<エントリー部門>

- ①美しい景観づくり賞 【エントリー数 3 件】
- ②活力ある地域づくり賞 【エントリー数 5 件】
- ③魅力ある観光空間づくり賞 【エントリー数 5 件】

●最優秀賞「ベスト・シーニックバイウエイズ・プロジェクト2020」2 件（指定ルートを対象）
部門賞の中から 2 件選出 ※例年 1 件のところ、審査の結果今年度は 2 件を選出

<評価の視点>

地域の資源を発見・活用し、有形・無形の「新しい価値」を生み出しているか否かに評価の軸を置くと共に、以下の点に留意し、プロジェクトの評価を行う。

－部門賞及び大賞－

- 持続性（取組の継続性の程度を評価）
- 浸透性（地域内への広がり程度の評価）
- 拡張性（モデルケースとしての地域外へ展開の程度を評価）
- 連携性（地域同士や他団体との連携の程度を評価）
- 先進性（新しいものに取り組んでいく姿勢の程度を評価）
- 効果性（定量的・定性的な効果の程度を評価）
- 人材育成